

働く世代の健康づくり 地域・職域連携の推進 (No. 117)

1 目的

就労世代を強化ターゲットとして、健康づくり推進のためのプラットフォームを整備し、健康づくりに取り組む者(就労世代)の増加、事業場における健康経営の機運の醸成に向けた取組みを実施し、就労世代の生活習慣の改善、各種健(検)診受診率の向上、健康経営の推進を目指す。

2 実施内容

(1) 健康づくり推進のためのプラットフォームの整備

①健康づくり推進会議の開催

有識者および市民で構成する北九州市健康づくり推進会議を開催して、第三次北九州市健康づくり推進プラン(計画期間:令和6年度～令和11年度)の進捗状況等を報告し、幅広く意見を聴取する。年1回程度開催。＜構成員＞13名(令和7年10月現在)

②-1 働く世代の健康づくり推進会議の開催

地域保健・職域保健関係者で構成する会議を開催し、健康課題や取組みを共有し、効果的かつ効率的に保健事業を実施する。年2回程度開催。＜構成員＞12名(令和7年10月現在)

②-2 普及啓発部会の設置

生命保険会社等で構成する部会を新たに設置し、がん検診受診促進や健康経営の普及啓発を推進する。年2回程度開催。＜構成員＞7名(令和7年10月現在)



(2) 多様な主体との協働による健(検)診受診促進

がん検診の受診率向上に向け、ターゲットを定め、民間事業所の強みを活かした受診促進を実施

【主なターゲット】 被扶養者、国民健康保険加入者

【実施方法】 普及啓発部会の構成団体(生命保険会社等)

【実施内容】 生命保険会社の強みを活かした取組み(受診促進)を行う

(3) 健康経営の推進

①健康経営の啓発資材の作成・配布

【対 象】 市内の小規模事業場(約4万カ所)

【啓発資材】 ・啓発チラシ 4万部作成 小規模事業場(R7年度:製造業、卸・小売業)1.2万カ所に送付
・啓発リーフレット 5千部作成 講演会や会議等、対面で説明できる機会に配布

②健康経営の普及啓発

小規模事業場や関係団体が主催する会議・研修会等で、従業員の健康づくりに取り組む必要性などの講話を実施

【対 象】 小規模事業場等の経営者・安全衛生担当者など

【実施方法】 プラットフォームの構成団体

【講 師】 プラットフォームの構成員など

3 KPI

- ① 健康経営の推進する市内企業等の増加(「ふくおか健康づくり団体・事業所宣言」登録事業所数)
1,464 事業所(R6. 3)⇒1,559事業所(R7. 3)⇒2,300 事業所(R10. 3)
- ② 健康寿命の延伸(※新ビジョンの主な成果指標、次期健康づくり推進プランの大目標)
男性 71.94 年、女性 75.63 年(R1)⇒男性 72.44 年、女性 75.99 年(R4)
⇒男性 76 年、女性 77 年(R10)

強化ターゲット
就労世代

No.117 働く世代の健康づくり 地域・職域連携の推進



《就労世代の健康課題》

- 肥満者が多く増加傾向
- 食生活の乱れ
- 運動量の不足
- 睡眠による休養が取れていない
- など



- 就労世代を対象とした保健事業は、制度上のつながりが明確でなく、アプローチが難しい

《これまでの状況》

- 行政は、企業における健康づくりの取組み状況を把握できていない など

■健康づくり推進のための プラットフォームの整備

「北九州市働く世代の健康づくり推進会議」
の設置

令和6年7月設置、年2回開催

《R6年度 実施内容》

地域保健関係者

職域保健関係者

連携・協働

■市内企業における健康づくりの 取組状況を確認

「企業の健康づくり実態調査」

R6年9月実施

[企業の健康づくり実態調査結果などからみる主な課題]

課題① 低い！

がん検診等の
認知度 約6割

課題② 乳がん検診の受診率 低い！

- ・ 国民健康保険の被保険者 約0.3割
- ・ 社会保険加入の被扶養者 約3割

課題③ 小規模事業場における従業員の 健康づくりの取組み

- ・ 経営者の約8割が必要と思っている
- ・ 実際に取り組んでいるのは約3割

ギャップ！

課題④ 低い！

健康経営の
認知度 約2割
(意味までわかる割合)

《R7年度 実施内容》

① 「普及啓発部会」の設置

② 多様な主体との協働
による健(検)診受診促進

③ 健康経営の推進

④ 小規模事業場が行う
健康づくり活動への支援

《目指す姿・KPI》

各種検診受診率の向上

生活習慣の改善

健康経営を推進する市内企業等の増加

令和7年度 新規事業

女性の健康にやさしい社会づくりに向けたウーマンヘルスケア推進事業 (No. 125)

1 主旨

女性が生涯を通じて健康で明るく充実した日々を自立して過ごすためには、生活の場（家庭、学校、職場など）を通じて、女性の様々な健康課題を社会全体で総合的に支援することが必要である。

女性はライフステージごとに女性ホルモンが劇的に変化することから、人生の各段階で女性の健康課題の解決に取り組む必要がある。

このため、北九州市医師会および北九州商工会議所などのステークホルダーと連携・協働し、女性自身のヘルスリテラシーの向上および健康経営の視点で女性の健康に配慮した職場環境推進の取組みを進め、女性特有の健康課題に対する社会全体の理解を促進する。

2 実施内容

働く女性の最も多い健康課題である「月経随伴症状」をメインテーマとし、若年層および就労世代の女性をメインターゲットとして取組みを展開する。

(1) 女性自身の健康への関心とリテラシーの向上

女性特有の健康課題については、若年層からのリテラシー向上が重要であるため、高校・大学生を対象に正しい知識の理解促進を行うとともに、イベントでの普及啓発、民間事業所と連携した検診等を行う。

① 高校・大学向け出張トーク

高校・大学等に婦人科医師等を派遣し、月経に関する正しい知識や対処法を伝える。4校で実施予定（九州国際大学付属高校、産業医科大学、九州栄養福祉大学、九州工業大学）

② イベント等での普及啓発

2回実施（TGC、YOBOW博）

③ 民間事業所と連携したがん検診

ドラッグストア等の駐車場で、休日等に乳がん検診、骨粗しょう症検診を実施。4回実施予定。

(2) 女性の健康に配慮した職場環境の推進

働く女性の健康課題の解決に向けて、小規模事業場の経営者等と働く女性を対象に職場での月経随伴症状等に関する困りごと等に関するアンケート調査を行い、その結果をもとに効果的な広報・啓発を実施する。

① 実態調査

月経に関するアンケートやヒアリング調査を実施。

（対象者）市内小規模事業場の経営者 500 名、働く女性 1,500 名

調査結果から、北九州市独自の啓発材料「生理のお悩みあるあるリスト」と「アクションリスト」を作成する。

② 広報・啓発

「生理のお悩みあるあるリスト」と「アクションリスト」を中心に啓発資料を制作し、企業の経営者等に対して、様々な媒体により周知啓発を行う。

[啓発資料]啓発リーフレット、動画（研修用、啓発用）など

[広報手段]

- ・小規模事業場等に啓発リーフレットを郵送
- ・テレビCMやJAMビジョンでの啓発用動画の放映、Yahooディスプレイやシラレル（名刺データ等を活用したターゲティング配信）による広告配信など。

3 K P I

事業目標	基準値	現状値	目標値	データソース
健康経営を推進する市内企業の増加	1,464 (R5)	1,559 (R6)	2,300 (R9)	「ふくおか健康づくり団体・事業所宣言」登録数 ※福岡県庁所管
女性の健康保持・増進に向けた取り組みを行う事業所の増加	5.0% (R6)	—	10.0% (R10)	北九州市「企業の健康づくり実態調査」 ※次回 R10 実施予定

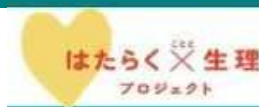
女性にやさしい社会づくりに向けたウーマンヘルスケア推進事業

女性にやさしい社会づくりに向けて、女性の健康に配慮した職場環境を推進するとともに、女性自身の健康リテラシー向上等の取り組みを進める。

<メイン テーマ> 月経随伴症状

<メインターゲット> 働く女性

〔取組の柱1〕女性の健康に配慮した職場環境の推進



市内の小規模事業場の経営者と働く女性を対象に、職場での月経随伴症状等に関する悩み等のアンケート調査を実施し、その結果を基に効果的な広報を実施。

①実態調査 (月経に関するアンケート)



〔対象〕

- ・小規模事業場の経営者 500名
- ・働く女性 1500名



②啓発資材の制作と広報 (リーフレット、動画(研修用、啓発用)など)



〔啓発資材の内容〕

- ・生理のお悩みあるあるリスト
- ・企業のアクションリスト など

北九州市独自



- 魅力ある会社づくりで雇用の維持・確保



- 働く女性のWell-beingの実現

〔取組の柱2〕女性自身の健康への関心とリテラシーの向上

高校や大学等に婦人科医師等を派遣し、月経に関する正しい知識や対処法を伝える。働く女性の検診機会の確保のため民間事業者と連携した乳がん検診等を実施。

③高校・大学向け出張トーク

4校で実施予定

- ・九州国際大学付属高校
- ・産業医科大学
- ・九州栄養福祉大学
- ・九州工業大学

④民間事業所と連携した検診

ドラッグストア等の駐車場で、休日等に乳がん検診、骨粗しょう症検診を実施

食を通じた生活習慣病予防(No.11) 「みんなでベジチェック®1万人プロジェクト」

1 目的

生活習慣病を予防し、健康寿命の延伸を図るためには、食生活の改善、中でも野菜の摂取が重要である。しかし福岡県の調査では、すべての年代で目標値(1日350g)を下回っている。

このため、協同団体と連携し市内の様々な場所で、ベジチェック(推定野菜摂取量を数値化する機器)を活用した測定会を実施し、野菜の摂取量を考えるきっかけとともに、野菜摂取の促進を図る。

【ベジチェック】手のひらをセンサーに押しあて約 30 秒で推定野菜摂取量を測定できる

2 事業概要

(1)実施者

保健福祉局 :健康推進課、認知症支援・介護予防課

各区役所 :保健福祉課

生命保険会社:明治安田生命、日本生命、第一生命

(2)主な実施場所

検診機関、企業等、イベント等、市内高校、市内大学 他

(3)測定人数

10,756 人(R7 年 9 月末時点)

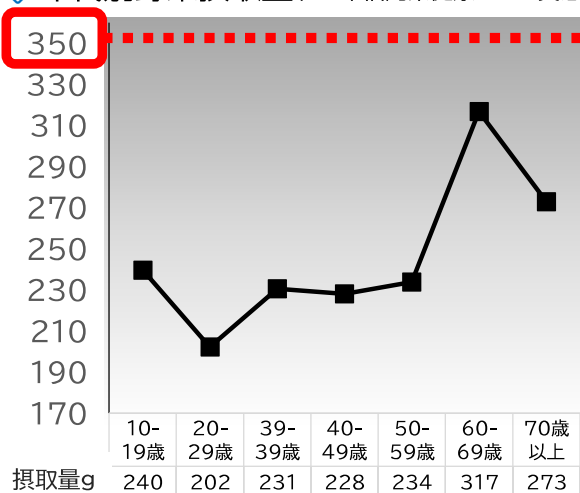


みんなでベジチェック®1万人プロジェクト(R7年5月29日~)

現状

すべての世代に必要な野菜量が
摂取できていない

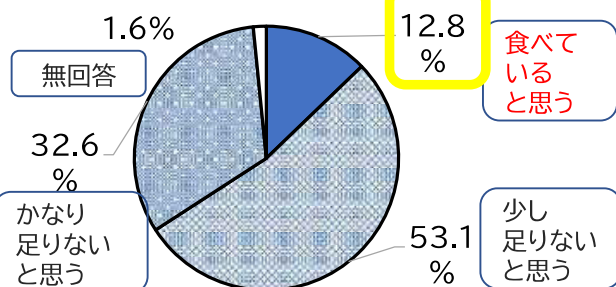
◇年代別野菜摂取量(R4年福岡県健康づくり実態調査)



◇「1日350gの野菜を食べていると思いますか？」

回答:20歳以上の市民

(R4年北九州市健康づくり及び食育に関する実態調査)



本市の 健康課題

第三次北九州市健康づくりプラン

オーラル
ヘルス

高血圧

肥満

生活習慣の改善

中でも、**食習慣の改善**が課題解決に重要

特に野菜摂取は、高血圧や糖尿病などの生活習慣病予防、体重のコントロールなどに効果的

おいしい野菜をたくさん食べることを
市全体のプロジェクトへ

事業 実施

みんなでベジチェック®
1万人プロジェクト 野菜摂取量を
数値化

9月末時点 10,756人が体験

測定結果票(裏)啓発チラシ

